

# 新幹線プレス



2024年1月16日

No.652

発行者 伊藤 一也

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

## パレスチナのジェノサイドを許すな! 東海労の未来をつくるためがんばろう!

### 2024年新幹線地本新春旗開き

1月14日南部労政会館に多くの組合員・OB・家族が集まり、共に闘う決意を固めました。

#### ■伊藤地本委員長

あらゆる戦争に反対の闘いを!  
職場と法廷で会社を追い込む闘いを  
J S 労結成の教訓に学び組織拡大を!



#### ■本部淵上委員長

闘いを東海労の未来にどう繋げていくか問われている。自分も職場でやれることをやりきる。

#### ■尾崎OB会長

羽田の事故で航空関係の労組が責任追及より原因究明を求めている。われわれの闘いが継承されている。

#### ■弁護団仲田弁護士

年休控訴審淵上・本橋裁判など判決が続く。弁護団も東海労と共にがんばる。

#### ■講演「なぜ虐殺を止められないのか?～パレスチナ問題の根源を問う

小寺隆幸氏(明治学院大学国際平和研究所研究員・原爆の凶丸木美術館前理事長)

- ・ガザの状況は戦闘ではなく無差別殺戮ジェノサイドだ。国連事務総長「単なる人道危機というより人類の危機です」
- ・パレスチナの現実には10/7に始まった問題ではない。ガザだけの問題ではない。西岸地区でもイスラエル軍による暴力・人権侵害が頻発している。
- ・問題の本質は宗教対立でも民族対立でもない。問題の本質は列強による植民地支配にあった。
- ・かつてパレスチナはオスマントルコ領であり、共通言語のアラビア語、イスラム・キリスト・ユダヤ教徒が共存していた。イギリス・フランスがそれを分割支配。戦後国連が「パレスチナ分割」を決議し、少数のユダヤ系住民に57%の土地を与えイスラエル建国で第一次中東戦争勃発。
- ・パレスチナ人の民族浄化=非人間化し虐殺を正当化。イスラエルの支配拡大でパレスチナ難民が拡大していった。
- ・1993年パレスチナ暫定自治のオスロ合意。しかし依然としてイスラエルの占領下であった。
- ・日本もオスマントルコ領土分割会議に加わっている。その後朝鮮・中国で植民地を拡大した。
- ・ユダヤ人が「男も女も子供も乳児も殺せ」とパレスチナ人へのジェノサイドを肯定している。ナチスの犠牲者が加害者と同じことを主張している。「結局のところ勝利したのはヒトラーではないか」。
- ・「救済の源は～究極的には他者を～私たちが生み出した犠牲者～パレスチナ人・レバノン人・ユダヤ人を受け入れるようという意味にある」「国家の数が一つであれ、二つであれ、五つであれ、私たちはこの土地を共有しなければなりません。」一つの社会の中に様々な人々が共に生きること。



※講演の一部です。教宣部で講演の要旨をまとめました。